

都市再生整備計画(第1回変更)

きょうりゅうけいこく
「恐竜溪谷かつやま」まちなか地区

ふくい 福井県 かつやま 勝山市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	福井県	市町村名	かつやまし 勝山市	地区名	きょうりゅう けいこく 「恐竜 渓谷かつやま」まちなか地区	面積	337.0 ha
計画期間	令和 5 年度 ～ 令和 9 年度	交付期間	令和 5 年度 ～ 令和 9 年度				

目標 大目標：歴史的まちなみや伝統行事が息づくまちなかを活性化し、にぎわいがあり安心して快適に暮らせる中心市街地の創出 目標1 自然遺産、歴史・文化遺産、産業遺産を活かし、広域的な観光と結びつけ、中心市街地の再生を図る中で、勝山市への来訪者をまちなかに誘導しにぎわいを創出する。 目標2 人口減少の中にあっても生活利便性や安心安全を確保すべく居住誘導の推進を図る。
目標設定の根拠 都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） 勝山市においては、今後も人口減少や高齢化、市街地の空洞化が進むと予測され、その結果、市街地の商業施設や医療施設の撤退等による生活利便性の低下、地域コミュニティの弱体化、さらには道路や上下水道等のライフライン、公共施設等の維持管理費の増大に伴う財政悪化も懸念される。一方、中部縦貫自動車道や北陸新幹線の開通、道の駅「恐竜渓谷かつやま」のオープン等をプラスの機会と捉え、これまで以上に持続可能な都市経営を目指すことが大きな課題となっている。 このため、H31.3に策定した立地適正化計画に基づき、宅地開発や都市機能の立地を適切な場所に誘導し、周辺部の特色を生かした地域づくりと今まで以上にコンパクトなまちづくりを進めることで、まちなかの空洞化を解消し、市民の暮らしやすさを高め、まちなかを活性化し、にぎわいのある中心市街地の創出を推進していく。 まちづくりの経緯及び現況 ・本市では、歴史的まちなみや伝統行事が息づくまちなかを活性化し、にぎわいのある中心市街地の創出を目指し、平成16年度～30年度の15箇年において都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金事業）を展開している。 ・第1期事業では、市民や来街者のふれあいの拠点を形成するため、既存建造物活用事業により市の指定文化財に指定された旧機業場の建物を活用して、交流機能と勝山市の情報発信機能、地場産業の繊維の歴史を紹介する展示機能を持たせた地域交流センター（はたや記念館ゆめおーれ勝山）の整備を行った。また、市民や来街者が、快適に散策のできる空間の創出を図るため、景観性を高めた散策ルートの整備を行い、地域のイベント等に活用できる大清水広場と地域交流センターに隣接して市民交流広場等の整備を行った。 ・第2期事業では、市民・観光客による中心市街地への来街とまちなか居住者の散策の強化に向けて、新たな回遊路整備や消雪装置等の整備に取組んだ。また、イベント非開催時の中心市街地への入込客数を増やすため、玄関口の勝山駅舎や交通環境改善に向けた勝山駅前整備を行い鉄道の有効活用を図るほか、歴史的まちなみ景観創出事業により魅力的な地域の景観整備の促進を図った。 ・第3期事業では、居住者の定住強化および高齢化に伴う自主的な除雪作業が困難な状況の支援として消雪装置等の整備を行ったほか、年間90万人が来館する県立恐竜博物館が立地する長尾山総合公園の再整備を行い、利用者の利便性確保と安全性向上を図った。公園内に建設した観光交流センター（ジオターミナル）での観光案内を行うことで、市内観光地と連携を図り、中心市街地への誘客に努めた。 ・全3期にわたる事業を行った結果、地域住民のまちづくりに対する意識が高まり、まちなかのイベント開催等が活発になった。また、美しいまちなみの整備が進み、まちなか誘客数が増加し、観光地としての土台ができあがりつつある。しかし、イベント非開催時のにぎわいは不十分であり、商店街の活性化をみせるまでには至っていない。 ・第6次総合計画では、「わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま」を10年後のまちの姿とし、2つの「創る」と4つの「守る」で政策目標を定め、まちづくりを進めている。 課題 ・年間90万人が訪れる長尾山総合公園に建設した、観光交流センター（ジオターミナル）と、まちなかの周遊観光促進に向け、民間活力によって甦り、食と文化を提供する拠点となる国の登録有形文化財「旧料亭花月楼」、そして、中心市街地や周辺観光地への周遊を促すための拠点となる道の駅「恐竜渓谷かつやま」の3拠点の連携によって、誘客数の増加を図らなければならない。 ・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」および「平成27年の地域別の男女別5歳別人口」からコーホート要因法により推計した結果、今後も人口減少や高齢化、市街地の空洞化が進むと予測される。特色を活かした地域づくりと今まで以上にコンパクトなまちづくりを進め、まちなかの空洞化を解消し、市民の暮らしやすさを高めなければならない。 ・（都）元禄線は、勝山市のシンボルロードであるが歴史的景観が形成されている本町通りや河原通りなど一體的な整備がされておらず調和がとれていない。また、地域防災計画により災害時の指定避難施設や指定避難場所に指定されている勝山市教育会館、中央公園への避難経路として重要な役割を担う道路であるものの、歩道のバリアフリー化がされておらず、歩行者動線に配慮されたコミュニティ道路とは言えない。 ・中央公園は来訪者をまちなかへ誘導する動線上に位置しているが、整備後40年が経過し、老朽化が顕著である。また、当公園は地域防災計画により災害時の指定緊急避難所に位置付けられているものの、避難時に必要となる衛生器具等の防災機能が不足している。 ・勝山市の中学生数は減少傾向にあり、各中学校における適正規模の生徒数及び学級数を維持することが困難な状況となっている。 ・教育会館は、教育委員会や資料室、まちづくり会館といった行政機能に加え、会議室やホール等の貸館機能を有しているが、貸館の回転率が低く同様の機能を持つ施設との集約化が必要である。建物自体も整備後40年が経過し、老朽化が顕著である。また、勝山市では子育て支援センターが都市機能誘導区域外に設置されており、中心市街地への居住誘導への課題となっている。 将来ビジョン（中長期） ☆歴史的まちなみ景観の再生と中心市街地の活性化を結合するまちづくり 【第6次勝山市総合計画】（R4.4）10年後のまちの姿：「わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま」 <取り組みの方向性> ・勝山市の地域資源である豊かな自然や美しい景観、歴史・伝統・文化などを磨き上げ生かすことで、多彩な学びや触れ合いの機会をつくり、地域への理解と価値を共有することで、勝山ならではの交流を促進します。 ・道路や公園、河川、下水道等の都市基盤の整備が進んでおり、引き続き、整備の緊急性やその効果、地域の実情やニーズなどを勘案しながら、計画的な都市基盤の整備を進めます。 【勝山市都市計画マスタープラン】（R4.6）基本目標：「わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま」 <まちづくりの方針> ・商業・医療・福祉などの生活に必要な機能や宅地開発を適正に誘導し、今まで以上にコンパクトなまちづくりを進めます。 ・中心市街地およびその周辺、勝山駅周辺は、市民の生活利便性を高めるため、都市機能や生活サービス機能の導入を図るとともに、道路・公園・河川等の社会基盤の適切な維持管理・更新を図ります。

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

・中心市街地(都市機能誘導区域)では、行政、商業、歴史文化等の都市機能のうち市全体を対象とする総合病院や大規模商業施設など高次の都市機能の維持、立地誘導を推し進める。また、次世代が起業・創業をしなくなる環境づくりを進める。

・中心市街地(居住誘導区域)では、次世代も暮らしたくなる便利で快適な居住環境づくりを進める。また、空き家の発生防止、有効活用、空地を活用した修復型のまちづくり等を積極的に推し進める。

・用途地域ゾーンでは、既存ストックを活かしながら、まとまりのある土地利用を形成する。また、市街地外延部の特性を活かしたライフスタイルに対応できる居住環境づくりを促進し、転入者を受け入れながら地域コミュニティの維持を図る。

・郊外部(田園・集落ゾーン)では、美しい眺望景観や暮らしに根つき、環境と調和した田園環境・集落を保存・継承していくことで、地域の環境を守る。また、市民の生活を支えるための施設を集めた地域生活コミュニティ拠点を形成するとともに、地域外の出身者や学生・若者等の力を受け入れながら地域コミュニティの維持を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

・都市機能誘導区域に、新中学校(教育文化施設)を整備する。

・新中学校は、勝山市の人口減少状況を鑑みた中学校再編、都市機能誘導区域への公共施設の集約を図るため、都市機能誘導区域外に位置している中学校(北部中学校、中部中学校、南部中学校)を統合し、勝山高校の敷地内に整備する。

・新中学校の整備により、生活利便性の向上や安心安全を確保し、都市機能誘導及び居住誘導を推進する。

・なお、旧中学校3校の跡地活用については検討中である。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
居住者人口	人／年	区域内の居住者人口	安心して快適に暮らせる中心市街地にすることで、居住者人口の減少傾向を推計値より抑制する。	11,005	令和3年度	10,420	令和9年度
定住化促進補助	件／年	区域内の活用申請数	定住化に関する支援を継続して行うことで、中心市街地への居住誘導を促し、居住者人口の減少割合を推計値より抑える。	15	令和3年度	14	令和9年度
中心市街地が魅力的であると思う人の割合	%	市民意識調査において、中心市街地が魅力的であると思う人の割合	安心して快適に暮らせる中心市街地にすることで、中心市街地が魅力的であると思う人の割合を増加させ、居住者人口の減少傾向を推計値より抑制する。	18	令和3年度	44	令和9年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【整備方針1: 市民、来街者の回遊・交流促進】 ・市民や来街者が快適に、楽しく散策の出来る空間の創出を図るために、中央公園を開放的な広場、気軽に休憩できる広場にすべく整備を行う。 ・勝山市のシンボルロードである(都)元禄線を歩行者動線に配慮したコミュニティー道路として整備し、勝山市への来訪者の回遊・交流促進、かつ、歩いて暮らせるまちづくりを実現する。		公園(基幹事業) 高質空間形成施設(基幹事業) まちづくり活動推進事業(提案事業)
【整備方針2: 誰もがすみたくなるまちづくり】 ・勝山市歴史的まちなみ景観創出事業により地域の景観を高め地域住民が誇りをもち住み続ける環境を整える。 ・人口減少に伴う中心市街地の空洞化を防ぎ、勝山市立地適正化計画における居住誘導区域内での定住化促進に関する支援を行う。 ・中央公園を災害時の市民の避難行動に対応できるよう屋外避難場所として整備を行う。 ・中学校3校を統合して新中学校を整備し、都市機能の維持及び立地誘導を推進することで、生活利便性を確保する。 ・「子育て支援機能」に特化したこども会館(仮称)を整備し、次世代も暮らしたくする便利で快適な居住環境づくりを推進することで、生活利便性を確保する。		公園(基幹事業) 地域創造支援事業(提案事業) 高質空間形成施設(基幹事業) 誘導施設(基幹事業) 既存建造物活用事業(基幹事業)
【整備方針3: まちづくり活動への意識向上】 ・近代化産業遺産であるゆめおーれ勝山においてフォーラムを開催し、歴史や遺産を活かすまちづくりについて考える機会を設ける。		まちづくり活動推進事業(提案事業)
その他		

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	3,306.0	交付限度額	1,653.0	国費率	0.5
---------	---------	-------	---------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分		交付対象 事業費	費用便益比 B／C
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分		
基幹事業	道路															
	公園		中央公園	勝山市	直	9,635㎡	7	9	7	9	248.0	248.0	248.0		248.0	-
	古都保存・緑地保全等事業															
	河川															
	下水道															
	駐車場有効利用システム															
	地域生活基盤施設															
	高質空間形成施設		(都)元禄線整備	勝山市	直	650m	5	7	5	7	190.0	190.0	190.0		190.0	-
	高次都市施設	地域交流センター														
		観光交流センター														
		テレワーク拠点施設														
		子育て世代活動支援センター														
		複合交通センター														
	誘導施設	医療施設														
		社会福祉施設														
		教育文化施設	新中学校	勝山市	直	6,929㎡	6	8	6	8	5,000.0	2,520.0	2,520.0		2,520.0	1.35
		子育て支援施設														
		元地の管理の適正化														
	基幹的誘導施設															
	既存建造物活用事業		こども会館(仮称)	勝山市	直	3,768㎡	7	8	7	8	550.0	300.0	300.0		300.0	-
	土地区画整理事業															
	市街地再開発事業															
	住宅街区整備事業															
	バリアフリー環境整備事業															
	優良建築物等整備事業															
	住宅市街地総合整備事業															
	街なみ環境整備事業															
	住宅地区改良事業等															
	都心共同住宅供給事業															
	公営住宅等整備															
	都市再生住宅等整備															
	防災街区整備事業															
	復興促進事業															
	エリア価値向上整備事業															
	合計										5,988.0	3,258.0	3,258.0	0.0	3,258.0	

…A

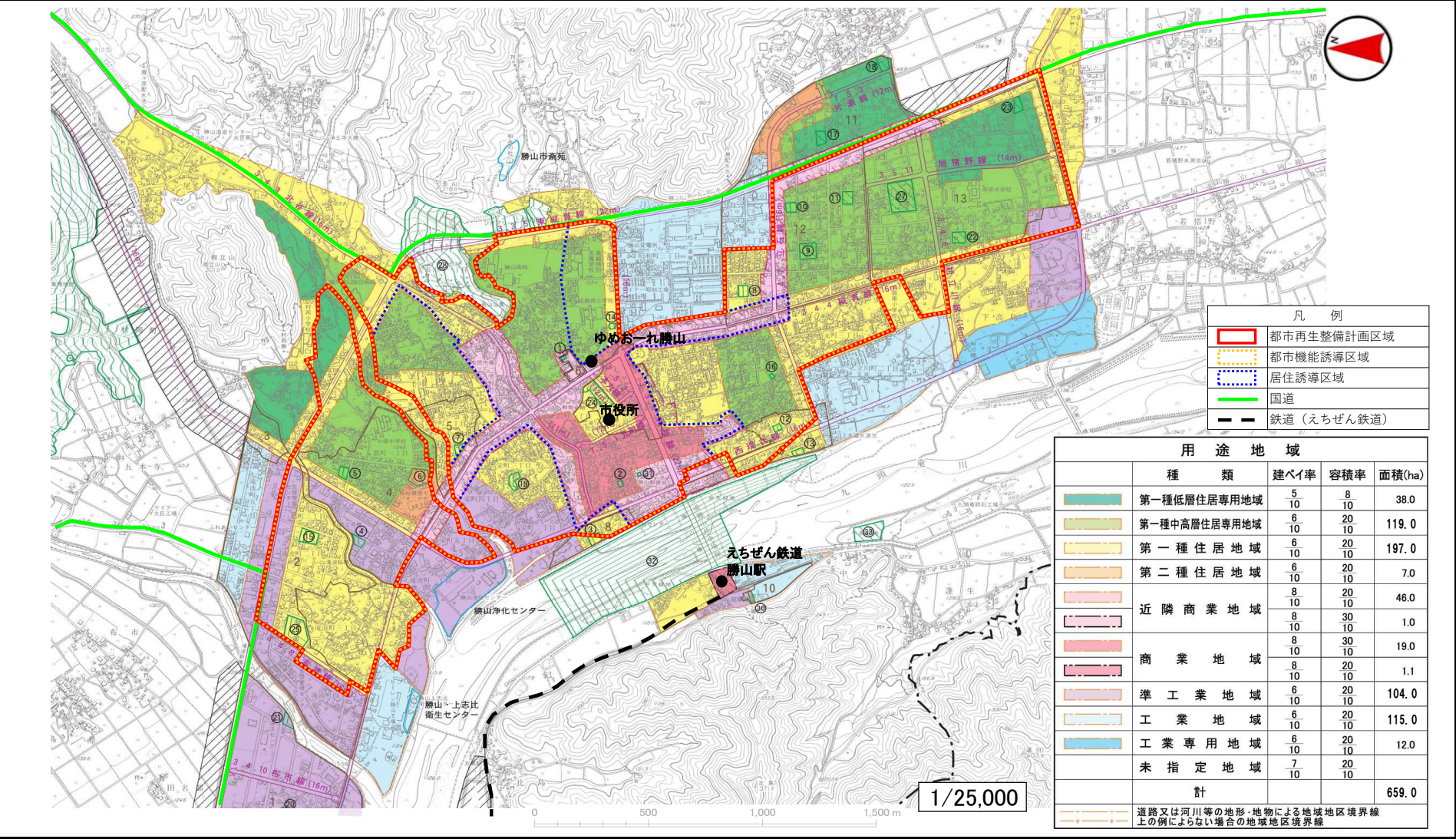
提案事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分		交付対象 事業費	
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分		
提案事業	地域創造	歴史的まちなみ景観創出事業	居住誘導区域内	勝山市	直	355.9ha	7	9	7	9	15.0	15.0	15.0		15.0	
	支援事業	定住化促進事業	居住誘導区域内	勝山市	直	355.9ha	5	9	5	9	25.0	25.0	25.0		25.0	
	事業活用	事業効果分析調査	-	勝山市	直	-	9	9	9	9	3.0	3.0	3.0		3.0	
	調査															
	まちづくり活動推進事業	まちづくり講演	-	勝山市	直	-	7	9	7	9	2.0	2.0	2.0		2.0	
		シェアモビリティ導入社会実験	居住誘導区域内	勝山市	直	355.9ha	7	9	7	9	3.0	3.0	3.0		3.0	
	合計										48.0	48.0	48.0	0.0	48.0	

…B

居住誘導促進事業	事業	事業箇所名	事業主体	直／間			(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分		交付対象 事業費	
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分		
居住誘導促進事業																
	合計										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	合計(A+B+C)															3,306.0

…C

「恐竜渓谷かつやま」まちなか地区(福井県勝山市)	面積	337.0	ha	区域	勝山地区、村岡地区、猪野瀬地区の一部 (勝山市立地適正化計画における居住誘導区域)
--------------------------	----	-------	----	----	--



「恐竜渓谷かつやま」まちなか地区(福井県勝山市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標: 歴史的まちなみや伝統行事が息づくまちなかを活性化し、にぎわいがあり安心して快適に暮らせる中心市街地の創出	代表的な指標	居住者人口 (人/年)	11,005 (R3年度)	→	10,420 (R9年度)
	目標1 自然遺産、歴史文化遺産、産業遺産を活かし、広域的な観光と結びつけ、中心市街地の再生を図る中で、勝山市への来訪者をまちなかに誘導し、にぎわいを創出する。		定住化促進補助 (件/年)	15 (R3年度)	→	14 (R9年度)
	目標2 人口減少の中にあっても生活利便性や安心安全を確保すべく居住誘導の推進を図る。		中心市街地が魅力的であると思う人の割合 (%)	18 (R3年度)	→	44 (R9年度)

